大石南中学校の再編に関するご意見・ご質問

日時	関係性	意見・提案の詳細	市の考え方（回答）
2026/10/07	元大石南中学校教職員	教育長が釘を差しているので「着地点＝大石南中廃校」は決まっているでしょうが、今の進め方では、まちづくりの視点がありません。まちづくりが失敗したら、誰が責任を持つのですか？	大石南中学校の廃校は決定した事実ではございません。 学校再編は、地域の未来やまちづくりに深く関わる重要な課題であり、行政がその責任を持って適切に進めていくべきものと考えております。 そのため現在は、教職員や保護者の皆様、そして通学区域内の地域の皆様にもご参画いただき、多角的な議論を行う場として「大石南中学校再編検討協議会」を設置し、幅広くご意見を聴取している段階です。 今後も地域の皆様とともに丁寧な検討を進めてまいります。
2026/11/5	元上尾市中学校教員	大石南中にも 9 年間勤めました。当時はとても荒れていましたが、仲間の先生達が団結して、体育祭でソーラン節をやったり(今でも伝統になっている)、学校創りを話し合って、良くしていきました。そういう先生たちの団結があったので、子どもたちも成長していったと思います。上尾市教育委員会は、小規模校は切磋琢磨ができない、イジメが起きたらクラス替えできない等を理由に平方北小を閉校にし、3 校に分ける措置を強行しました。対象の子どもたちは親友とも別れたり、とてもショックを受けると思います。増々不登校も増えるかもしれません。大石南中も同じです。大石南中を廃校にしたら、今でも大規模の大石中が超大規模校になります。太平中も	今回のご意見は、少人数学級の推進や教職員の働き方改革について、本市の教育環境全体に関わるご提案として承ります。 少人数学級については、国において令和 3 年度から小学校の学級編制の標準が段階的に 35 人へ引き下げられており、埼玉県においてもこの方針に基づき教職員の配置が進められています。本市独自の基準によるさらなる少人数学級の実施につきましては、全国的な教員不足の中で質の高い教員を安定的に確保することの難しさや、財源の確保といった課題があり、教育の質を維持・向上させていく観点から、現時点での実施は困難であると考えております。 一方で、限られた財源の中でもきめ細かな指導を実現するため、本市では支援員等の配置や ICT の活用な

		中～大規模校になります。すべきことは、「少人数学級の推進」です。かつては、上尾市も 35 人程度学級を目指していましたが、今は頭の片隅にでもあるでしょうか？山梨県？のように 30 人や 25 人学級にすれば、クラス数も増え、子どもたちにもゆとりができます。大規模校のまま、オープン教室を行うなんて愚の骨頂です。先生の数も足りていません。大石南中の懇談会の時、委員が「市費で教員を雇えないのですか？」と質問したら、何と教育長が「そんなお金はありません」と切って捨てた発言にはびっくりしました。教育条件整備を行うのが、教育委員会の役割であるはずなのに、その責任者がお金を理由に教員採用を否定するとは、自らの責任を投げ捨てているとしか言えません。先生が足りなくて毎日、奮闘している教職員の事を真剣に考えてほしいと思います。以上、意見を送ります。	ど、現場の実情に応じた教育条件の整備に努めております。 次に、教職員の負担軽減は、教育の質を高める上でも極めて重要な課題であると認識しております。教員が本来の役割である授業準備や児童生徒への指導に専念できるよう、引き続き業務の見直しやサポート体制の充実を図り、教職員が働きやすい環境づくりと児童生徒の教育環境の向上に努めてまいります。 なお、ご意見の中に「平方北小を閉校にし、3 校に分ける措置を強行しました」との記述がございますが、同校の適正規模・適正配置につきましては、現在、上尾市通学区域審議会に諮問し、慎重に審議を進めている段階であり、現時点で閉校が決定した事実はございません。